

「日本の農業を考えるシンポジウム」(資料；小松)

1 報われない営み—この時給で、農業を継げとは言えない……—

水田作経営1戸あたりの収支(2021年度)

		農業所得 (千円)	自家農業 労働時間	時間当たり 農業所得(円)
	全 国	10	1,005	10.0
規 模	5.0ha未満	-254	744	-341.4
	5.0~10.0	794	2,190	362.6
	10.0~15.0	2,400	3,575	671.3
	15.0~20.0	4,877	3,823	1,275.7
	20.0~30.0	5,357	4,617	1,160.3
別	30.0~50.0	5,428	6,933	782.9
	50.0ha以上	9,194	13,746	668.8
	地			
	北海道	2,716	2,661	1,020.7
	都府県	-92	948	-97.0
域	東北	28	1,196	23.4
	北陸	152	1,044	145.6
	関東・東山	-97	1,072	-90.5
	東海	-269	1,106	-243.2
	近畿	-193	661	-292.0
	中国	-159	869	-183.0
	四国	-307	356	-862.4
九州	-132	856	-154.2	

農水省「営農類型別農業経営統計」より作成

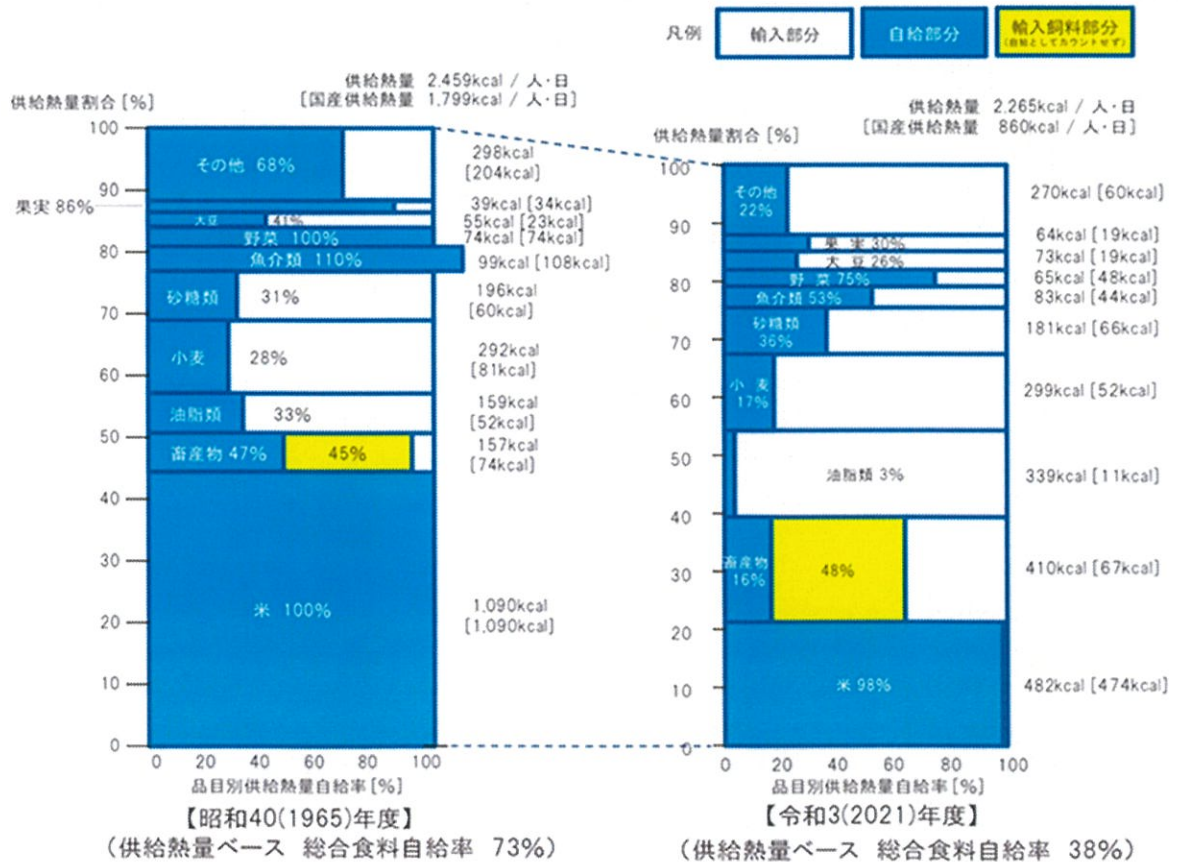
酪農経営(搾乳牛飼養頭数別)1戸あたりの収支
(2021年度)

	農業所得 (千円)	自家農業 労働時間	時間当たり 農業所得(円)
全 国	7,358	8,377	878.4
50頭未満	3,075	4,884	629.6
50~100	7,477	8,357	894.7
100~200	2,667	14,233	187.4
200頭以上	73,342	39,443	1,859.4
北海道	8,730	11,452	762.3
50頭未満	6,540	5,200	1,257.7
50~100	9,714	7,418	1,309.5
100~200	5,495	13,907	395.1
200頭以上	16,759	33,014	507.6
都府県	6,905	7,361	938.1
50頭未満	2,510	4,837	518.9
50~100	6,505	8,763	742.3
100~200	4	14,540	0.3
200頭以上	234,537	57,763	4,060.3

農水省「営農類型別農業経営統計」より作成

2 食料自給率 38%、これこそが食料有事

図表1-1-2 昭和40(1965)年度と令和3(2021)年度の食料消費構造の比較



資料：農林水産省作成

出所：『2022(令和4)年度食料・農業・農村白書』農林水産省(2023年5月26日)、61頁

⇒ 米の多面的活用がカギ。耕作放棄地の油田化プロジェクト。

3 農業をはじめとする第一次産業は平和的国防産業 ー多面的機能に注目ー

☆ 農山漁村の果たす役割から考える＝多面的機能＋食料・林産材供給機能

(所得補償) (価格保障)

(1) 多面的機能＝下図に示されている、市場取引されない無形の機能
 ……ほぼ「ただ働き」、だから「所得補償」が不可欠

★その価値は、失って初めて分かる。しかし気づいたときには手遅れ。

(2) 食料(林産物や海産物も含む)・林産材供給機能
 ……市場取引される有形の機能。持続的に供給するためには「価格保障」が不可欠

図表3-3-1 農業・森林・水産業の多面的機能



資料：日本学術会議答申を踏まえ農林水産省で作成
 注：図中の用語については、用語の解説4を参照

出所：「2017(平成29)年度食料・農業・農村白書」農林水産省、202頁

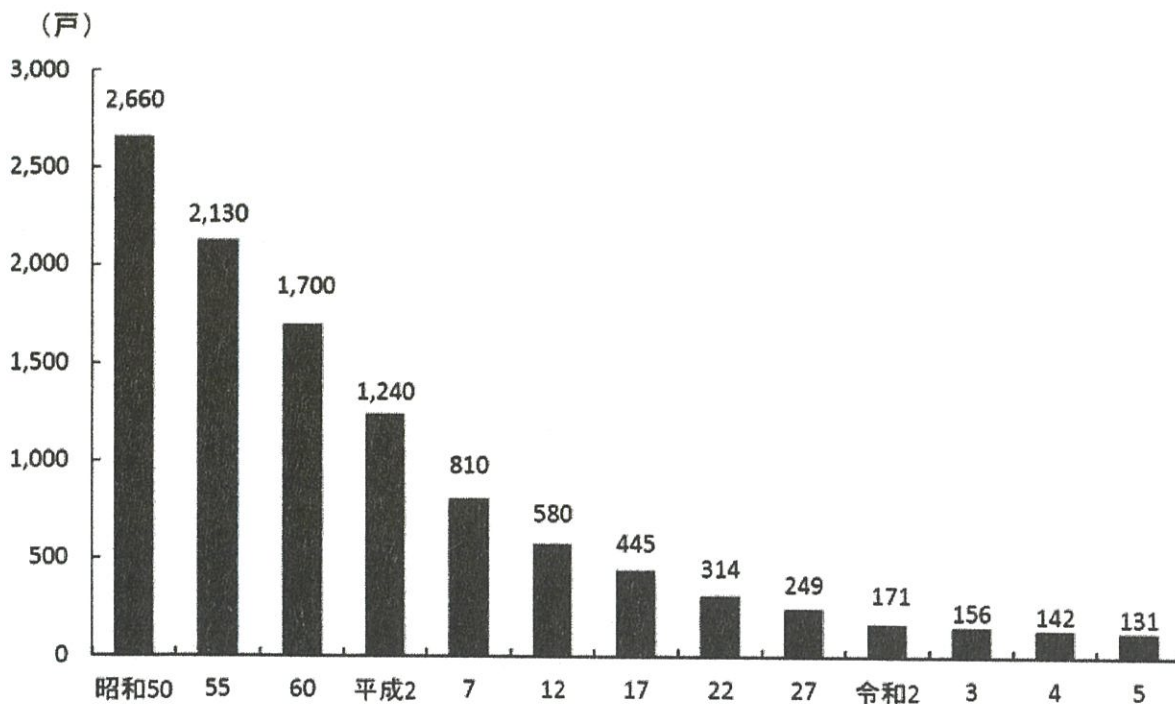
4 食農断絶、食農分断を越えて食農連帯を目指す

乳牛の統計（令和5年）

神奈川県の乳用牛の統計についてまとめています。

乳用牛の飼養戸数

令和5年2月1日現在の神奈川県内の飼養戸数は131戸です。



全国順位は22位です。

